



Volunteer network

主任神父様・信徒会長様・教区ボランティア・ネットワークの皆様



「大地震でも、公園の水道は 生きている」 心を運び、心を受ける・災害時のボランティア・柏崎教会

— 3 年たちました。「海の日」でしたね

2007 年 7 月 16 日、午前 10 時 13 分。柏崎教会にいました。サマーキャンプの準備で長岡地区スタッフ・ミーティングの真っ最中。会議用の机が倒れて、神父様たちもひっくり返って、立ち上がれなくて。

その後、急いで幼稚園に行きました。幼稚園の庭のあちこちから、水が噴き出していて、水道管の破裂かと思ったら、液状化現象だったそうです。あとで知りました。安全を確認し教会にもどろうとしましたが、ホールの床が大きく波打っていて(と感じた)、歩いているつもりなのに、いつまでも入口のドアに近づかない。気持ちは走っているのに、実際には動いていない。不思議な体験でした。

— 大地震でも「公園の水道」が出ると・・・

災害に備えるテレビ番組での、東京の石原知事の話と、とっさに思い出したんです。「公園の水」は最後まで出る仕組みになっていると。

すぐに教会の横の公園に走りました。ホントに水が出て、知り合いに、公園の水道が出ますよ、と急いで連絡しましたが、取り合ってもらえませんでした。神父様と相談し、ポリタンク三つに水を汲みました。

— 水の確保が、炊き出しへと？

「お腹をすかしている」と知人がテレビ(ニュース)で答えているのを見て、これは、何かしなければ、と心が動きました。炊き出しの、きっかけです。もちろん、「公園の水」がなければ、できなかったことです。

— 水があっても、食材や、火は

幼稚園の翌日の食材が冷蔵庫にあったし、火のおこし方は、ガールスカウトですからね、できるし。たきぎの準備はあったんです。

これで、炊き出しができる、やりましょう・・・と、声をかけましたが、すぐには賛成してもらえなかった。地震で動転して、気持ちが前へ進まないというか、公園の水道のときと同じですね。それでも、信者さんの先生もいるし、迷っている暇はない。何事にも反対はあるものです。始めることに決め、教会全体の動きになっていきました。一日目がカレーライス、二日目は、うどんでした。幼稚園の献立そのままです。

— しっかり、献立を立てたそうですね

こういう時だからこそ、です。料理の得意な人もいますし、届いた野菜や他の食材をみて、バランスの取れた、見た目のよい献立をたててくれました。毎日、150 食つくりました。はじめは、たきぎで火をおこし調理しましたが、数日後にはガスが使えるようになりました。災害は最初の三日が勝負です。

(裏面へ続く)

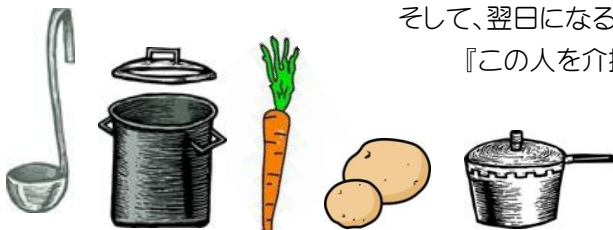
知識・技能の習得 → 災害 → 情報収集 → 状況判断 → 伝達 → 支援ネットワーク

・・・ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。

『この人を介抱してください。費用がもつとかわったら、帰りがけに払います。』

(ルカ 10 章)



新潟教区ボランティア・ネットワーク

教区本部事務局 事務局長 大瀧浩一 窓口 佐久間香子

(ボランティア・ネットワーク登録数 80 人 + 12 グループ)



— 次に、困ったことは

紙皿、割り箸が手に入りませんでした。全部、品切れで、結局、北海道の親類に頼みました。「被災地向け」宅急便で正味 24 時間で到着。肉ばかりでは、と魚も届きました。さば、ほっけ、ありがたかったです。

— ご近所への食事の配達について

自衛隊の出動はとても速く、地震発生から 7~8 時間後には到着したようです。海水浴場は自衛隊のテントでいっぱい。ヘリコプターが飛び交い、戦争さながらの状態でした。教会の道の向こう側にも設営していて、お風呂もあったのですが、でも、お年寄りが国道を越えていくのは難しい。一軒一軒回って 80 食、配りました。喜んでいただき幸いです。

— うわさが飛ぶ中での「一体化」の秘訣は

「情報の一本化」は最初からはっきりさせました。教区に、です。教区から各教会へ。地元では、うわさが乱れ飛んで、例えば、スーパーが店を閉めてしまったとか、ありましたが、必要なことは、現場に行ってみて確認が大事です。余分なことで神経をすり減らすことのないように。こういう時だからこそ、です。

— 課題は

「日ごろの備え」が肝心ですね。飲み水や、食材は準備してありましたが、夏ですから、教会ではシャワーばかりで風呂の汲み置き水はありませんでした。食器は車で 10 分ほどの山の家で洗ったんです。

(柏崎教会 I)

一日前プロジェクト もし、一日前にもどれたら… 私たち(被災者)から みなさんに伝えたいこと



■ おとなりの井戸水もらえて大助かり

～トイレの「ジャー」は、バケツ 3 杯分～

柏崎市 30 代 男性

水が出ないのが一番こまりましたね。うちは田舎なので家に井戸があって、これは助かったなと思ったんですけど、地震で井戸水の方のパイプがやられてしまって、井戸水をくみ出すことができませんでした。で、何日間か、水道が出るまで、おとなりから井戸水をもらってしのぎました。でも、いつも何となくやっているトイレの「ジャー」は、バケツ 3 杯も運ばなきゃだめなんですよ。いつも洗濯に使う風呂の残り湯は、大きな揺れで、ガシャンガシャンと台所まで飛び散っていて、もう 3 分の 1 ぐらいしかありませんでした。何が困ると言ったら、やっぱりトイレの水が一番で、おとなりから井戸の水をいただいたのは、すごくありがたかったです。

■ そんなところで寝ていちゃ、ダメ ～家具の配置に要注意～

柏崎市 20 代 男性

前の日の夜が仕事で遅くて、その時間までまだ寝ていたんです。最初軽く揺れ出して、「あ、また地震だな。まあ、いつものことだから」と思って、そんなに慌てもしなかったんですけど、すぐにクレーン車が何か突っ込んで来たんじゃないかと思うほどの揺れになりました。で、あわてて、パジャマのまま、2 階の部屋の窓から 1 階の屋根の上に飛び出たんです。「上から 2 階の屋根のかわらが落ちてきたりして、かえって危ないよ」とあとで人に言われたんですけど、その時は夢中でした。私が寝ていた場所というのは、頭のほうにテレビが置いてあって、足元には冷蔵庫が置いてありました。やっと揺れがおさまって、振り返って自分の部屋の中を見たら、テレビと冷蔵庫が自分の寝ていた場所にドン、ドンと転がっていたのです。それを見て、「逃げてよかったな」と思うと同時に、「そんなところで寝ていちゃいけないな」と思いました。

■ 食料や物資はふだんから備蓄してないと

柏崎市 30 代 女性

ちょうどコンビニに停めて、車のサイドブレーキをかけた瞬間に揺れ始めて、そのうちジェットコースターに乗っているような感じになりました。直後でしたので、運良くコンビニに寄れて水とかおにぎりとかパンとか、当面必要な食料を買うことができました。コンビニは、お酒とかが割れて床が水浸しで、お酒の臭いが混じったすごい臭いがありました。家に帰ったら既に停電していました。で、「ああ、ポリタンクを買ってくるのを忘れたね」と言って、慌ててまた買いに出たんですけど、「もう全部売り切れました」と言われてしまいました。もう水もすぐにとまっちゃうような感じでしたから、ペットボトルの空いたのを一生懸命探して、買って来た水と冷蔵庫にあったお茶とかで、復旧まで足りるのかなとすごく心配しました。3 年前の新潟県中越地震のときは水もガスも止まらなかったのだから、「何とかなるだろう」と、容器とかも全然そろえていなかったんですね。それが、ガスも、水道も、電気も全部とまってしまったので、「私たちはどうなるだろう」という感じでした。やはり、食料や必要な容器などは、ふだんから備蓄しておかないといけないなと思いました。